

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

37. イタドリ（タデ科ソバカズラ属）

Fallopia japonica (Houtt.) Ronse Decr. var. *japonica*

2015年9月

日当たりのよい土手や道傍、畦畔などいたるところに生育する雌雄異株の多年草です。根茎は発達し所々で茎を出します。茎は中空で直立あるいは斜上し、高さ 30～150 cmで生育地の肥沃程度により成長度合が異なります。栄養状態のよい個体は上部で多くの枝に分かれ、大型化します。葉は互生し、有柄で広卵状楕円形～広卵形、先は尾状で鋭頭になり、基部は切型または浅く心形で長さ 6～15 cm、幅 5～9 cm、托葉鞘は膜質で早くに枯れ落ちます。花期は 7～10 月で、総状花序は円錐状に集まり、多くの白い花をつけます。花はがくが 5 深裂し長さ 1.5～3 mm、雄花は雄ずいが 8 個、雌花はがくの 3 外裂片が花後に大きくなり翼を出し下垂するのが特徴です。果実は倒卵形で先はへこみ、長さ 6～10 mmです。分布は北海道、本州、四国、九州、台湾、朝鮮、中国で、兵庫県では全域に生育しており、姫路市においても身近な植物のひとつです。若い茎は食用に利用します。ときに花や果実が赤い品種がありメイゲツソウ (*F. japonica* (Houtt.) Ronse Decr. var. *japonica* f. *colorans* (Makino) Yonek.) と呼ばれます。類似種に大型のオオイタドリ (*F. sachalinensis* (F.Schmidt) Ronse Decr.) が本州中部以北に生育しています。



左上：イタドリ

上：メイゲツソウ（雌花と果実）

左：イタドリ雄花拡大